

令和7年度茅ヶ崎市環境審議会 第3回生活環境分科会（WEB会議）会議要旨

日 時： 令和7年8月8日（金）14時00分から15時40分まで
場 所： 茅ヶ崎市役所 本庁舎4階 会議室5（市役所での参加、傍聴場所）
出席委員： 杉山委員、村越委員
（WEB会議により出席）草野委員、三島委員、湯浅委員
出席職員： 【環境政策課】柳下課長、森課長補佐、石橋主事、高橋主事

- 1 茅ヶ崎市環境基本計画年次報告書（令和7年度版）の評価
及び茅ヶ崎市環境基本計画の政策評価について
→政策目標5（施策⑳～㉑）について評価を行った。
→政策目標5について政策評価を行った。
→主な意見等は次のとおり。（○＝委員、■＝市）

【政策目標5】環境に配慮した行動を実践するまち

施策⑳学校における環境教育の充実

【年次報告書の評価】

〔評価できる点〕

- 小中学校のスクールエコアクションの事例の掲載、学校間での共有。どんぐり銀行や机やイスの再利用。
- ごみの減量化の出前授業が実施され、施設見学会を行い、環境教育推進を行っている。
- 出前授業等の実施件数が伸びている。
〔今後検討すべき課題〕
- サイトの更新頻度を増やす。年齢に合わせた、見やすい興味を引くようなプログラムづくり。
例えば、ゲーム方式。
- 情報提供だけでなく、情報の活用のしやすさも検討が必要と思われる。
- 茅ヶ崎エコスクールのアクセス数が減少しているが、スマートフォンなどでの見やすさなどを考慮する必要があるのではないか。
- 市のホームページの仕様としては、モバイル対応されていて、スマートフォンなどのモバイル端末からアクセスした際には、見やすい表示となっている。それ以上の見やすさを求めるという形になると、スマートフォン専用のアプリを新たに作るということが必要だが、費用対効果等を勘案した上で、検討していく。
- 「ちがさきエコスクール」へのアクセス数だが、この目標値はどういった形で決めたのか。また、「ちがさきエコスクール」のアクセス数を増やすためにどのような仕掛けみたいなことをしているのか。
- この目標の数字の設定について、おそらく計画策定当初に年間のアクセス数からの推移を見定めて、推計して設定しているものかと思う。また、閲覧数を伸ばす工夫について、この「ちがさきエコスクール」とは別に、「ちがさきエコネット」というポータルサイトを運営しているが、更新頻度を上げるというところを取り組みとしては行っている。更新頻度が多くても、サイト内のコンテンツが充実していないと、飽きられてしまう可能性もあるので、コンテンツの充実というのいろいろ検討して実施している。ただ、このエコスクールは、どちらかと言うと学校の先生方が教育の参考になるような情報を載せている。例えば、教員向けに年3回発行している環境学習ニュースや、学校での環境に関する取り組みの好事例を掲載していて、双方向のやりとりといった形ではなく、いわゆる情報を掲載する形にとどまっているサイトであるので、その辺の工夫が今後は必要である。一方、「ちがさきエコネット」にも、環境学習に資するコンテンツや、会員登録をした方が投稿できる仕掛けを設けたりしているので、同様にするのも一つ手かとは思いますが、逆にその辺を住み分け、或いは整理して統合したりするなど、今後は効果的な情報発信をしていければと考えている。

- 以前「ちがさきエコネット」に登録していて、情報が更新されるとメールが来るので、開いてみるが、取り組みの報告のみで、募集とかがあまりなかったもので、いつの間にか遠のいてしまった。このアクセス数が増えなのは、コンテンツをもう少し変えていくべきで、今後の課題と思う。
- プログラム或いはコンテンツを、もう少し頑張っていたきたい。「ちがさきエコスクール」のアクセス数は、1日当たり、1ヶ月あたり、年間あたりなどあると思うが、1日あたりか。
 - 年間あたりである。
- 学校の先生を対象にした情報の共有かと思うので、そのあたりを中心に、やはりプログラムコンテンツをもう少し充実をさせていただきたい。

施策②地域における環境学習機会の拡充

【年次報告書の評価】

〔評価できる点〕

- 環境に関する講座、見学会、観察会の実施。
- 生涯学習ハンドブックを発行した点。
- ZOOMのウェビナーの利用など、新しい手段による学習機会を提供した点。

〔今後検討すべき課題〕

- 清掃活動、ボランティア清掃は学生さんへの声かけや、例えば、海岸であれば海にまつわる事業者さんへの呼びかけ、飲料メーカー、地元の酒造会社や飲食関係など、幅広く募ってはどうか。
- 川沿いなどの地域清掃も定期的に行う。
- 海洋プラスチックの問題。
- 環境学習の実施が平日であることが多いため、参加者に偏りが無いよう、デジタルツールを活用し、いつでも参加できる策を考えてほしい。
- ②について、すでにビーチクリーンへの参加や、ビーチクリーンの際に使うゴミ袋の提供、昨年度は清掃作業の時に飲めるようにウォーターサーバーの設置といった協力をいただいている。また、活動量の差はあるが、自治会を中心とした清掃活動は色々な地域で行われている。

自然環境分科会で、自然の保全活動をしている団体への支援について質問があり回答したが、そういった活動に対する金銭補助はないが、森林環境譲与税を活用して、市で購入した刈払機や保全に関する道具の貸与等、地域でボランティアや活動されている方への支援を行っている。
- 去年の市民集会で、海はビーチクリーン等、定期的なキャンペーンがあるが、山は全然ないので山にも目を向けてほしいという話があった。市長も同意見で、北部地区で検討しているが、範囲が広すぎるため、どこから着手すべきか分からないのが実情。1つの案として、市民の森や里山公園が挙げられている。地域の生産組合に一定の補助金を出して、川の清掃をするというプログラムがある。ただ、地域の生産組合のメンバーのほとんどが60歳以上、70、80代ということで、体力的に実施が非常に困難になり、私の地域の生産組合は今年からやめている。自治会で定期的に清掃をしているところは色々ある。
- 山の活動と川の清掃活動と動きはあるが、高齢化等の理由で難しくなっているため、それを踏まえた対応が必要である。

施策③市内の環境意識の向上

【年次報告書の評価】

〔評価できる点〕

- C-EMSの適用が順調に進み、市内での環境施策の実施に対する理解が深まった。
- 職員の自転車利用の促進。認定調査員の方が実際に市の公用自転車で来られていました。
- 環境省等による研修会などに職員を継続的に派遣していること。
- 職員の自転車利用の促進について、自宅に訪問調査とかに来られる時に車だと停める場所が

無かったりして心配していたが、自転車で行くと言っていただき、非常に良い試みだと思った。

○CO₂対策としてはもちろん、駐車場の問題とかもあると思うので、自転車が使えるところはぜひ積極的に使ってほしい。

〔今後検討すべき課題〕

○より一層省エネ、節電への理解を深め、危機感や責任感を持って取り組める仕組みの検討が必要である。

○省エネ推進には、具体的に庁内での電気、ガス、水道の使用量などの変動の共有や、庁内関係課や利用する市民を含めた研修会を定期的実施するなどの工夫も必要である。

○庁内での具体的な電気、ガス使用量などは市の職員の中でも共有されているのか。研修会などはどの程度行われているのか。

■C-EMSの取り組みの一つとして、年間を通して実施している取り組みを確認するような外部監査をしたり、その結果を、必ずしも対面ではないが、書面を通じての研修などで共有したり、環境に配慮した取り組みの共有、周知啓発を行っている。また、庁内でのエネルギー使用量を少しでも減らすため、全庁的な通知や管理職が集まる会議での発信を通じて、待機電力の削減、使用していない電源のコンセントを抜くこと、会議室のこまめな電気のオンオフ、エアコンとかも含めて徹底するようにした。例えば、ワンフロア全員帰ってれば、すべてのエアコン電気を消せるが、何人か残っているとそこの電気は消せず、その部分のエネルギー消費が発生するので、なるべくそういったことがないように、ノー残業デーは帰るよう啓発等、現状試行錯誤しながら、エネルギー消費や電力使用量を少しでも減らそうと取り組みはしている。

○減らしたい部分もあると思うが、目標値として設定されているので、そこに向けて最大限の努力は必要かと思う。具体的などは少し省略するが、さらに徹底して削減をお願いしたい。

○庁内のトイレ横にある休憩スペースにいたら、誰かがいなくなると電気が消えていたので省エネの意識があると感じた。

○センサーでのオンオフは導入されているのか。

■廊下等の部分は人感センサーでのオンオフを採用している。

施策②環境に配慮した活動への支援

【年次報告書の評価】

〔評価できる点〕

○市民の協力のもと、多種多様な生き物の観測、生息、成育が確認できた。

○活動に関しての情報発信や講演会等への支援、測定器の貸し出し等が行われている。

○自然環境評価調査を市民調査員の参加のもとに実施していること。

○市民だけでなく事業者に対する情報提供を行っていること。

〔今後検討すべき課題〕

○自然環境評価調査に携わる人材の継続的な育成。

○ある程度のご年齢の方は紙ベースの方が見やすいのではないか。

○市民活動団体等に関する情報をきちんと収集することが必要である。

○自然環境評価調査の報告書の作成にあたっては、市民にも分かりやすい内容になるよう、留意することが必要である。

■景観みどり課が同席していないため、分かる範囲での回答になるが、自然環境評価調査に関しては、今年度末までに調査が終わり、取りまとめをするので、市民にとって分かりやすいように取りまとめることを目指している。また、継続的な人材の育成については、本調査が始まる前にプレ調査という形でフィールドワークを実施している。環境活動に取り組んでいる団体では、新しく活動に参加する人が増えないという課題もあるようで、自然環境評価調査等は市民を対象に広く募集して実施しているので、そこから環境に関心を持った方が団体の活動に参加したり、個人として環境活動に取り組んだりするのが良いのかなと考えている。

紙ベースの方が情報発信の際にご高齢の方には良いのではないかということについては、対象を見極めて情報発信していく中で考えなければいけない一方で、即時性を持って周知するという部分ではSNSを活用するのが中心になってきているので、もちろん紙も併せて周知しているが、それぞれの広報媒体を上手く使いながら情報発信していきたいと考えている。

- 調査員については、本調査が終わったら環境活動も終わりというのはいらないと思う。紙ベースについては、全戸配布をやる時代ではないと思うが、一定数用意をして、手に取りやすいところに置いてあると良いのかなと思う。①、④、⑤や紙ベースの話を中心に報告書にまとめる。

施策②⑤環境に関する情報の発信

【年次報告書の評価】

〔評価できる点〕

- 実施事業の事前・事後周知に適切な媒体を活用した。
 - 「ちがさきエコネット」などによって積極的に情報発信をしている点。
 - LINEセグメント配信などターゲットを意識した情報発信手段も活用し、環境に関する情報の発信に努めた。
- #### 〔今後検討すべき課題〕
- 広報紙やメール配信、ポスター、ちらし等の活用。また、見やすい工夫。
 - 目を引く展示の工夫や体験型イベントの開催。
 - 「ちがさきエコネット」のアクセス数が増加しているので、引き続き分かりやすい、楽しいコンテンツで情報発信をしてほしい。
 - 市民が使用する媒体は常に変化しているので、迅速な取り組みが必要である。視覚に訴えることの他、媒体ごとの特性も加味した資料の作成が必要であると思われる。
 - 他の市の取り組みとして、水道水とミネラルウォーターの飲み比べがあり、その地域は雨水を浄化したものと湧き水を利用しているところに分かれていて、エビアンと湧き水を飲み比べたが全然分からず、水道水とも飲み比べたが分からなかった。こういう分かりやすいやり方はすごく良いと思う。どのように水が綺麗になっていくのかが分かるし、湧き水を水道水として利用している凄さも感じたので、そういう分かりやすい発信の仕方があると良い。他にも、靴下を切ったもので鍋敷きを作ったりできるブースがあったりと、自分たちが住んでいる地域のごみの処理や成り立ちが分かるブースがあり、こういうイベントは良いと感じた。
 - 茅ヶ崎も特徴に合わせて色々と企画をしていただけたらと思う。
 - 環境分野、或いは市民を対象とした環境に関する事業を幅広くやっているととても良いが、講座によっては予定数が決まっていて抽選に漏れてしまうことがある。特に環境フェアのスペシャルイベント等は、親子参加で非常に人気があって抽選に漏れてしまう方もいるので、例えば、FMで流すとか、オンラインで視聴することで、より多くの方が聞けるのではないかなと思う。
 - 今回委員になって初めて清水谷を見学した。地元で70何年間いて、清水谷の存在は知っていたが、中に入って実際に見たのは初めてで、色々な珍しい植物があると説明を受けた。地元の人間にとっては、ネガティブな発言で申し訳ないが、そういう施設があるために地元の発展を遅らせている。例えば、直近の話だと、ある高校を移転させるための候補地の一つとして清水谷の話も出たが、無理だということで候補から外した。たまに来て珍しい植物とか動物を見て感動される方はいいが、地元を引っ張る人間としては、そういった施設がたくさんあると地域の発展が全然進まないという点もあるので、活動を一生懸命やっている方々には申し訳ないが、そういった意見もあるということをお伝えしたい。
 - 地元の方の目線と環境保全の目線との違うところになるかと思うので、しっかりとコミュニケーションを取って対応していくのが良いと思う。また、情報発信については、LINEやインスタグラム、tiktok等もあるので、利用者に合わせて、引き続き発信の仕方を工夫していただきたい。

【政策目標5】環境に配慮した行動を実践するまち

環境基本計画の政策評価

〔取組実績に関するコメント〕

- 学校における環境教育は、時間がかかるが、じわじわと効果が期待できる。
- 学校教育に関する分かりやすい、年齢に合ったコンテンツの作成。
- 地域や海岸での美化キャンペーン時、企業や施設など地域に関わる多くの人たちにも声をかけ参加を促していく。
- 体験型の環境フェアの取り組みは引き続き、展示物などを工夫しながら行っていく。
- 学校における資料や、出前授業、地域における環境学習会の実施を行うことで市民に広く周知されている。
- 環境に関する情報の発信に関しては、SNSやホームページなどにおいて広く発信しているが、ちがさきエコネット等、会員数を増やすことも必要だと思う。
- 市民活動団体による自然環境保全活動などの情報を発信している点は評価できる。
- 広範な広報・啓発活動を行っている点は評価できるが、それぞれの効果や内容について、継続的に検証して改善していくことが求められる。
- 市民の不満度は減少傾向にあり、環境に配慮した様々な取り組みを実践されている方の割合も増加している状況にはあるので、引き続き、目標達成を目指して市内の環境教育・学習機会の充実及び活動推進の取り組みを実施してほしい。
- 特に情報発信ツールについては、新しいものがどんどん出てきて、リアルタイムや更新頻度を増やしていくことが肝になってくると思うので、継続的に実施していければと考えている。

〔総合評価に関するコメント〕

- 今後も地道な広報活動が必要と感じる。
- 環境学習や環境活動の機会を作るのには、広報紙のみならず、各自治会へのちらしポスター配布、ネットやホームページの活用を積極的に行っていく。
- 環境に関する取り組みを、新たな市民、事業者とも行っていけるよう、活動していくことが大切と思う。
- 環境学習・環境活動の機会が市民に届いていない。参加のしやすさの案を市民から募ったらどうか。
- 市民や事業者の「省エネルギーなど地球温暖化対策への取り組み」を実施している割合についても、取り組みやすさを検討していく必要があると思う。
- 「不満」を抱いている人々が、どのような層の人々であるのかを調査データから分析することが必要である。
- 「環境学習の機会」「環境活動の機会」の創出にあたり、世代やライフスタイルを考慮することは重要であるので、より具体的な内容を伴った計画を策定する必要がある。特に仕事や子育てで忙しい世代をどう取り込むかが鍵になると思われる。
- 情報発信、啓発については、色々なツールを使って行っていて、他の分科会含め、一定の評価をいただいている。課題としては、対象を絞ったアプローチをした方がより効果的ではないか、イベント参加者や、発信した情報や知識が受け手の行動変容に繋がっているのかという話があり、個人の行動にどのように反映されたかを検証するのは非常に難しいが、そこも意識した情報発信や情報提供、周知啓発をしていかなければいけないと考えている。
- 例えば、⑥の「不満」を抱いている人々がどのような人なのか、データから男性が多い、女性が多い、年代の違い、住んでいる地域の違い等そういったことの検討はしているのか。
- そういった属性の部分まで落とし込んだ分析までは現在至っていない。
- 継続的に検討いただきたい。

- 2 分野横断的な視点に関するコメントについて
→分野横断的意見について確認を行った。

(環境基本計画の中間見直しに向けて)

〔分野横断的な視点に関するコメント〕

○分野横断的意見について、今年度からの取り組みということで、どのように議論すればよいか。

■今年度行う見直しを視野に入れると、各分科会が横断的に絡む部分もあり、他の政策分野も含めた検討が必要な中、協議の場をなかなか作れないので、その意見を集めたのが分野横断的意見シートである。例えば、①は自然環境分科会に関連する部分もあるが、大半は温暖化対策分科会と生活環境分科会の、特にごみの焼却に伴う二酸化炭素排出等を意識した内容の意見である。

今回の計画の見直しが、10年後のあるべき姿という目標は決まっていて、他の分野も連動している意識を持って取り組みを進めなければいけないが、実際に数値的な目標にするのは難しいのではないかという意見も出ている。ここでの意見を1個1個拾うというよりは、他分科会ではこういう意見があり、こういった視点に立てば、こんな取り組みができるのではないかというような視野を広げるような捉え方をしてもらいたい。

次の第2回環境審議会分野横断的シートに対する意見を口頭で捕捉するような場を設ける予定なので、最終的に安齋会長の方で答申書をまとめる際には、意見としてまとめたいと考えている。

○この意見に対して改めて文章をまとめる必要はなく、第2回の環境審議会意見交換する機会があるので、それに向けて、特に生活環境分科会に関わる部分についてこの場で意見交換をして、認識を深めるという理解でよろしいか。

■第2回環境審議会の中で、見直しに向けて横断的な部分での意見が出ているという話になると思うが、すべてを反映できるものではないし、逆に少し視点を変えれば、複数の分科会で取り組めることもあると思うので、この場では、生活環境分科会として意見を整理して、第2回環境審議会の際に意見を出していただければと思う。

○特に政策目標3のごみのところ、焼却炉で出てくるCO₂の削減という部分が温暖化対策分科会と重なっている領域で、CO₂を減らすには、ごみを減らさないといけないということで話が来ていると思うので、生活環境分科会としては、リサイクル等の徹底について、考えることが必要かと思う。多かったのが、焼却炉からのCO₂の話で、特にプラスチックごみを減らさないとCO₂の量は減らないのではないかということ。ごみの組成について、再検討すべきではないかという提案。ただ、ごみに関しては別途、廃棄物減量等推進審議会があるので、ごみの組成そのもの話はそちらの審議会の話であって、生活環境分科会の領域ではない。こちらの分科会は収集の体制の問題や、不法投棄、市民のリサイクルへの取り組みということになる。

横浜市民は、2022年にプラスチック資源循環促進法ができた関係で、去年から今年にかけてプラスチックごみの分別の仕方が変わっている。茅ヶ崎市も導入の検討はしていると思うが、それは廃棄物減量等推進審議会で行っている。実際に横浜市と同じようなプラスチックの分別が導入されると、製品プラスチックは横浜市の場合は燃やしていたが、それを容器包装プラスチックとかといっしょに分けて出すので、それが徹底されれば、燃やされるものが減るので、CO₂の削減に繋がると思うが、直接的にはこの分科会のテリトリーではないので、こちらで取り組むとすると、分別の仕方が変わってくるので、市民に周知徹底をして、分別が守られるような収集体制ができているか見ていくのが基本的な対応の方針になるかと思う。

■ごみの組成的な部分や分別をどうしていくかの施策に関しては、資源循環課が担当していて、廃棄物に関しては一般廃棄物処理基本計画というのがあり、そういった中でも色々な取り組み目標を掲げている。それが今年度の3月に新しく改定されているので、そこでの取り組み内容も踏まえながらリンクして施策を推進していけるような指標、取り組みを載せなければいけないと考えている。現行の取り組みの中で分別等が進んで、プラ組成もきちんと整理されていくかと思う。年次報告書にもごみの排出量は出しているが、燃やせるごみ、燃やせないごみ、大型ごみのような形で、プラ組成のごみという形で出せていない。その辺りも加味しながら、分別を促進できるようなものを見直しの際に載せていければ、連動した部分で取り組みを進められると考えているが、数字的に出したり、組成の部分まで踏み込んだりはこちらの分科会では難しいかと思う。

○廃棄物減量等推進審議会で決めているので難しいとは思いますが、新しい計画ができて対応した

指標が出てくれば、積極的に反映したいし、市民の行動ということで4Rの推進はこちらの施策にも入っているのです、その辺りの実態が把握できて分別の推進をしながら、後押しできるような指標や目標を取り込めるとさらに良いのかなと思う。

- 温暖化WGのWGと、PDCAの意味と、マテリアルリサイクルの意味を教えてください。
- WGはワーキンググループの略。温暖化ワーキンググループの略なので、温暖化対策分科会のことである。PDCAはプラン、ドゥー、チェック、アクションの略で、計画を遂行管理するためのサイクルで計画、実行、評価、見直しを継続すること。マテリアルリサイクルは廃棄物を新しい原料として再利用する方法で組成ごとに再利用してより資源を有効活用することだったと思う。
- マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクル等があり、ケミカルリサイクルは科学的に手を加えて、プラスチックであれば原料に近い形に戻すもの、サーマルリサイクルは燃やして、その熱をエネルギーとして利用するもので、マテリアルリサイクルは通常のリサイクルと言っているもののイメージに近いと思う。原料を砕いたりして、プラスチックであれば、ペレットの状態くらい細かく砕いて、それをまた原料に作るというような形。
- この生活環境分科会に対しては、焼却をする際のCO₂の話がメインだったかと思うので、組成の中身そのものに関しては、こちらの分科会の管轄ではないが、廃棄物減量等推進審議会で新しい計画を作って進めようとしているので、今後の見直しにあたっては計画の中身をこちらの指標等に反映はさせたいと考えている。特に市民の分別の行動というのはすごく大事だと思うので、より実態を把握して分別の促進を後押しできるような形での指標や取り組みを盛り込んでいきたいと考えている。

3 その他

→答申までのスケジュールについて案内を行った。

■配付資料

資料1 事前評価シート（生活環境分科会）

資料2 政策評価意見シート（生活環境分科会）

資料3 分野横断的意見シート